53　西村越前守平時安の墓

（ニシムラエチゼンノカミタイラノトキヤスノハカ）

指定　　平成 10 年 6 月 26 日　　町指定文化財（史跡）
所在地　平内大山

　この墓石は、種子島家の惣奉行で、西村家第 16 代当主の太郎左衛門尉平時之が、享保 14 年（1729）に建立したものである。
　西村越前守平時安は、戦国時代に活躍した種子島家の重臣で、種子島家第 14 代時堯公、第 16 代久時公の時、家老として仕え、文禄の役（秀吉の朝鮮の役）には、殿の名代として出陣した。
　墓石には、時安の系譜と一代の事蹟について刻まれている。中世資料のない本町にとっては、貴重な史料となるものであり、また、この碑文により、平内の海中温泉が、当時すでに湯治に使われていたことが判明した。また、時安の父、式部丞時貫は、天文 12 年 8 月、種子島に鉄砲伝来をもたらした功労者である。

※碑文抜粋
奥越前守時安者平清盛公四代。種子島家先祖。肥後守信基公三代。太郎左衛門尉信真公六男。四郎左衛門尉信時。西村嚢祖十代之孫也。奉仕時堯公久時公為相。尽忠義所々戦功粗記之。